

## 国立屏東商業技術学院での実習を終えて

姫路獨協大学日本語専攻

前田 留果

私が過ごしたこの1ヵ月間の実習は、私の人生の中で忘れられない経験になると思います。

私は実習に行く前から台湾にとっても興味があり、今回の実習をとっても楽しみにしていました。実際に台湾に着いて周りを見ると台湾の街は発展していて、高いビルが建ち並び、交通は整備されていて、私たち日本人にとってもすごく住みやすい環境でした。

私たち姫路獨協大学の実習生3人は主に応用日本語学科の1年生の授業を見学し、実習も1年生の授業でさせていただきました。応用日本語学科の学生は、みなさんととても親切で、私たち実習生の手伝いやお世話をしてくれました。日本語に興味を持っている子もそうでない子も私たちと積極的にコミュニケーションを取ってくれて私たちもとても過ごしやすかったです。

応用日本語学科の授業は海外では稀に見るチームティーチングで日本語を教えています。私たちが授業に参加した当初はどのように授業が進んでいるのかあまりはっきりとは分かりませんでした。時間が経つにつれてだんだんと授業の構成や導入と復習のサイクルが理解できるようになりました。チームティーチングでは先生同士の連絡がとても重要だと感じました。先生方は抜群のチームワークで授業を形成しておられ、学生が集中する方法や楽しく勉強できるような工夫を努力と時間を惜しまずに考えておられます。こちらの学校ではチームティーチングをスムーズに、学生たちの混乱を防ぐために、先生が授業のことを話し合うBBSを設けていることをお聞きして、学生の為に丁寧な準備をされているなと思いました。このような授業を見学し、実習できたことは海外で日本語を教えたいと思っている私にとってとても勉強になりました。復習や宿題で使う教材を自分で作成したり、未習単語に注意する工夫はこれから私が実際に日本語を教える時に積極的に取り入れたいなと思いました。また学生と教師の間に信頼関係がありました。このような信頼関係を築けるような教師になりたいなと思いました。

私たちは導入と会話の授業で1時間程度の実習と、会話の復習授業と聴解の授業を30分程度お手伝いしました。導入の実習で約60人という大勢の学生の前に立ちました。こんなに大勢の前で実習するのは初めてで上手く出来るかととても不安でしたが、学生が積極的に参加してくれたことで教案通りに出来て良かったです。会話等の授業では30人ずつのクラスに分れるのでゲームなどを授業に取り入れましたが、バタバタとして時間配分が上手くいきませんでした。しかし先生のアドバイスや学生が協力してくれたことにより、自分たちの

やりたい授業をすることが出来ました。私たちの拙い実習を学生たちは一生懸命聴いてくれ、先生方も丁寧にアドバイスや評価、改善点を教えてくださいました。海外で実際に日本語を教える経験をしたことは私にとってとても貴重な経験になりました。

授業以外の学外見学の時間もたくさん設けて下さいました。このような実習でしか見られないような所に連れて行って下さったり、先生方のお力無しには体験出来ないことをたくさんさせていただきました。大学以外の日本語教育の現場を見たのは初めての経験で、とても新鮮に感じました。また日本人が関わった場所にも行くことが出来て、日本と台湾の関係の深さを感じることも出来ました。毎回、見学に行く時には応用日本語学科に関わらず、たくさんの先生方にお世話になりました。先生方の車で送り迎えをしていただいたり、通訳をしていただいたりして、多大なご迷惑をお掛けしたにも関わらず、先生方は嫌な顔一つせず快く協力して下さいました。このような時間や機会を作って下さった、張月環先生をはじめとする先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

私はこの実習を通してますます台湾へ興味を持つようになりました。台湾の方の人柄は日本人とよく似ているなど感じました。その理由は、初め学生たちは恥ずかしそうであり話しかけて来ませんでした。時間が経つに連れて、ペラペラと知っている日本語を使って話してくれるようになったからです。日本人にもこのような傾向がみられると私は思います。最初は礼儀正しく大人しくしていますが、仲が良くなると本当に何でも話せて、親密な友達になれると思います。また親日な方がたくさんいらっしゃるって、日本人ですという日本語を話して下さったり、親切に道を教えて下さったりしました。私は日本語教師という職業を目指して、その職業を通して、日本と台湾の良い関係をもっと深めていきたいと思いました。台湾の歴史や時事にも目を向けてもっと勉強したいなとも思いました。屏東商業技術学院での1ヵ月は私の人生で掛け替えのない貴重な経験となりました。このような貴重な経験が出来たことは先生方、学生のみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。またきっと台湾へ行きたいと思います。

最後に、日本で起きた東日本大震災の際、多くの寄付を台湾のみなさんからいただきました。東北は少しずつですが、みなさんのおかげで復興しつつあます。たくさんのご協力を本当にありがとうございました。

## 國立屏東商業技術學院實習心得

姬路獨協大學日本語專攻  
前田 留果

這一個月的實習將成為我人生中難以忘懷的經驗。

我在到台灣實習前就對台灣很感到興趣，這次我是抱著非常期待的心情來台灣實習的。實際來到台灣後看到了台灣街道的發展、高樓林立以及完善的交通設施，我覺得這樣的環境也很適合日本人居住。

我們三位姬路獨協大學的實習生主要是來此見習應用日語系一年級學生們的上課情形並實習教學。應用日語系的學生們非常的友善也很照顧我們。不管對日語感興趣與否，這些學生們都非常積極地與我們交流，讓我們感到很自在。

應用日語系採用了在日本以外的地方不太常見的團隊合作教學方式來教授日文。當初我們剛開始參與課程時，並不是十分了解這裡的課程是用怎麼樣的方式進行的。但幾天下來我們漸漸了解這裡的課程架構、教導新句型及複習的授課模式。我體會到在團隊合作教學中，老師們間的連繫是非常重要的。老師們以極佳的團隊合作默契授課，老師們下了很多工夫且不惜時間努力去思考要如何做才能讓學生們集中注意力且快樂的學習。聽說老師們為了讓團隊合作教學能順利進行並為了避免學生們對學業上產生疑慮，所以特別架設了一個老師之間可以用來溝通課程上的問題的 BBS 平台。我覺得老師們真的很替學生們著想。能夠參觀這樣的教學課程並且能在這裡實習，對於想要在國外教授日文的我來說實在是受益良多。像是自己製作複習及課後練習的教材或是注意哪些是還沒有學過的單字等等。以後有機會教日語時我會特別將這些做法用在我的課程中。還有學生跟老師之間有很好的信賴關係。我想要成為一位像這樣能夠與學生有很好的信任關係的老師。

我們在日語課、日語會話課各實習了 1 小時並且在會話的複習課程及聽力的課程各做了 30 分左右的實習。日語課的實習是站在約 60 人面前教學。這是我第一次站在這麼多人面前教學，能不能做得好讓我感到十分不安，但多虧了學生們積極地參與，讓我能按照教案順利完成我的實習。會話的課程約是 30 人一班，所以我們以遊戲的方式進行授課。因為有些手忙腳亂，所以時間分配並不是很理想。但是因為有老師的建議及學生們的配合下，讓我們能夠照著自己所想的教學方式完成授課。學生們很認真的聽著我們生疏的教學，老師們也給了我們很多細部的建議及評價並告訴我們需要改進的地方。能實際在國外教日文，這個經驗對我而言非常地珍貴。

應日系也替我們安排了很多校外教學參觀。老師帶我們去了只有這樣的實習才能參觀的地方，還體驗了許多沒有老師們的協助的話就無法體驗的事。這是我第一次實際參觀大學以外的日語課，一切令我感到很有趣。我們也去了跟日本人

有淵源的地方，讓我感受到日本與台灣的關係是如此的密切。每次外出參觀時除了應用日語系的老師們以外，也受到了許多老師們的關照。像是老師們開車來接我們、幫我們翻譯等等，儘管造成老師們很大的困擾，但老師們並不會表現出不悅的神色都很樂意的協助我們。在此由衷感謝張月環老師以及各位老師為我們安排的種種實習以及校外參觀。

透過這次的實習，我開始對台灣越來越感到興趣。我覺得台灣人的個性跟日本人非常相似。我會有這樣的感覺是因為剛開始學生們因為害羞而不太不好意思與我們交談，但經過一段時間後他們就開始運用他們所知的日語來與我們交談。我個人覺得日本人也有這樣的傾向。剛開始相處時都是表現得很有禮貌很安靜的，但漸漸熟絡後就會變成無話不談的好朋友。在台灣有很多人喜歡日本，我們只要說我是日本人就會有人用日語跟我們交談，或很親切的告訴我們路該怎麼走。我想藉由日語教師這個職業，讓台灣與日本的關係更加良好。我也想好好地去瞭解台灣的歷史及時事。在屏東商業技術學院的這一個月，對我而言是我人生中非常寶貴的經驗。而這一切都是託老師們及學生們的福。真的很謝謝大家。我內心真的有許多說不出的感謝。我還會再去台灣的。

最後，日本在 311 大地震時獲得了許多台灣人的資助。託各位的福，現在東北地方正一點一點地在重建復興中。真的十分感謝各位的鼎力相助。